

肯山公三百年遠忌

—伊達綱村公が残したもの—



▲伊達綱村肖像[東園寺蔵]

今年塩竈を衰退の危機から救った仙台藩四代藩主伊達綱村公(肯山公)の三百年遠忌(おんき)に当たります。

6月号に引き続き、7月号では市内に残る綱村公の事跡を紹介します。

鹽竈神社

歴代の仙台藩主は鹽竈神社の「大神主」として祭事を司りました。中でも綱村公は神仏に対する信仰が極めて深かったことで知られ、御祭神などを調査させて鹽竈神社の縁起を確定するなど、現在の鹽竈神社の根幹を築きました。

国の重要文化財に指定されている現在の社殿は、綱村公が元禄8(1695)年に改築に着手し、五代藩主吉村公のときに完成したものです。この造営の際、一宮合祀となっていた社殿が、古式にならって左宮・右宮の両宮に復元されました。

表坂の大鳥居

表坂の大鳥居(国重要文化財)は、鹽竈神社の改築を記念して綱村公が奉納したものです。

表坂に向かって左側の柱には「寛文三年癸卯七月七日松平亀千代(綱村公の幼名)の刻印が見られます。材料の御影石は一関産で、北上川を通じて船で運ばれました。



東園寺碑

東園寺(旭町)の境内に残る「東園寺碑」は、綱村公の功績を称えるため、安永5(1776)年に恵活禅師によって建立されたものです。

慶応3(1867)年の大火の際に破損し、一部が残るのみですが、東園

寺に拓本(たくほん)が現存するほか、昭和59(1984)年には市民有志により新たな碑が再建されています。



▶東園寺碑拓本「東園寺蔵」

鷹の巣浦の干拓

現在の尾島町、新富町、旭町にかけての国道45号線沿いの地域は、かつて「鷹の巣浦」と呼ばれた入江でした。その最奥部は花立町(現在の第三小学校あたり)に至っていたといえます。

鷹の巣浦は綱村公が出した「貞享の特令」によって新田開発が許され、堤が築かれて干拓が進められました。花立町の南の丘、通称観月山には2基の石碑があります。大きい方の「土地造成記念碑」の冒頭には、「この地は昔、鷹の巣入江といわれた海浜であったが、貞享二年仙台藩第四世綱村公の時代、塩釜村繁栄のため干拓されて以来、中新田となえ開墾、村民に恵澤(けいたく)すること頗(すこぶ)る大きかった」と記されています。

生涯学習課学習支援係 ☎36212556

塩竈市津波防災センター 7月12日(木)11:00オープン!



「マリゲート塩釜」隣に津波防災センターがオープンします。東日本大震災の記録や防災に役立つ情報の展示、津波発生時は一時避難場所、市営汽船欠航時は待機場所として活用します。オープン初日には、記念講演が行われます。

記念講演 ※入場自由ですが、席に限りがあります
とき 7月12日(木)11:10~
講師 東北大学災害科学国際研究所
情報管理・社会連携研究部門 佐藤翔輔 准教授

市民安全課防災係 ☎355-6491